

谷川 万太郎谷井戸小屋沢左岸尾根

棚橋

【日時】2007年3月17日（土）～18日（日）

【メンバー】宮内(L)、畠山、矢本（以上、わらじの仲間）、棚橋、佐貫

「わらじの仲間」の宮内さんに山行のお誘いを受け、去年の経験からも足を引っ張ることは目に見えてはいたが、山行を共にできる魅力には勝てず、無謀にも佐貫共々パーティメンバーに加えていただいた。場所は万太郎谷左岸側の尾根とのことで今年の状態では山行が成立するのか心配されたが、週の半ばに幸運にもまとまった降雪に恵まれた。

3月17日 雪

私の都合で出発が少し遅かったり、前夜のうちに土合に車を一台デポする必要があったりして土樽駅に着いたのかなり遅かったが、5時には起床した。我々2人の共同装備の割振りは少なめだったが、とにかく引き離されないようにしなければならないので、甘えさせていただく。

除雪区間が終わると、踏み抜きが鬱陶しいので早々にワカンを装着する。登山道が尾根に上がってしまっ



万太郎谷左岸を進む

たから、万太郎谷の左岸をラッセルしながら進む。井戸小屋沢出合に近づくにつれ右手側が急になる。どうしても前の人に近づいてしまう私は、間隔を空けることを指示される。

井戸小屋沢は何とか埋まっており、問題なく渡ることができた。更に進み、当初登る予定だったソエゴシソネ（オジカ沢ノ頭北尾根）の取付手前まで達したが、明日の天気は悪天が予想されており、そうするとオジカ沢ノ頭から肩の小屋まで1時間位であるが厳しいらしい。ここはリーダーの判断で、井戸小屋沢出合まで戻ることにする。そこでサブルートに挙げ



井戸小屋沢を渡る

てある小障子尾根を登るか、又は井戸小屋沢左岸にするか協議した。畠山さんと私は前者、矢本さんと佐貫は後者、宮内さんはどちらでも良いと見事に分かれてしまった。とりあえず偵察と、畠山さんが小障子尾根に取り付き、私も続く。残されたメンバーも続いているようだ。途中、ワカンを

アイゼンに替えて高度を上げるも、藪はなかなか薄くならない。そこで改めてルートを井戸小屋沢左岸尾根に再変更することにする。一時間かけて登った藪尾根だが、降りるのには20分と掛からなかった。

井戸小屋沢で水を汲み、改めて井戸小屋沢左岸に取り付く。16時までは行動しようとリーダー。私は今すぐにでも幕を張りたいかったが幕営適地も無く、予定通りの16時まで行動してようやく幕が張れる地点に辿り着いた。



小障子尾根の藪

2月18日 小雪

稜線目指して登り始める。一晩で40～50センチ位の降雪が有ったようで、得した気分だ。視界は利かないが、風がそれほどでもないのが救いだ。先頭を交代しながら登り、最後に佐貫がギャップを超えると、そこが吾策新道だった。往路を戻すことも考えていたが、予定通り吾策新道を下ることにする。

久々のラッセルを十分堪能し舟窪に達すると、そこは素敵なブナ森のスキーパラダイスだった。今度はスキーで訪れたいところだ。もう一頑張りして、土樽駅に着いた。

体力面、ルート取り等個人的には学ぶべきことが多く有意義な山行だった。そして何より楽しかった。わらじの仲間のお三方と我々のレベルの差は大きかったが、少しでも縮めるよう努力していきたい。

【行程】 3/17 土樽駅 (6:20) ～ 井戸小屋沢出合 (10:30) ～ ソエゴシソネ末端 (11:00)
 ～ 小障子尾根 (12:00/13:45) ～ 井戸小屋沢出合 (14:00) ～ 幕場 (16:00)
 3/18 幕場 (7:00) ～ 稜線 (11:00) ～ 土樽駅 (13:50)

【地図】 茂倉岳、水上

